

PLANET waves Tru-Strobe Pedal Tuner 取扱説明書

- ・シミュレーションではない本物のストロボチューニング、**±0.1セントの正確なチューニング**
- ・ヘヴィーデューティなダイキャスト構造、トゥルー・バイパス・ワイヤリング設計
- ・Buzz Feiten Tuning System®モード、ドロップ・チューニング・モード、バックライト・スクリーン採用

製品について

Tru-Strobe Pedal Tuner (基準周波数 (またはピッチ) と楽器の入力信号との間における干渉を表示することでチューニングを行います。チューナーの電子回路が楽器信号のピッチを検出し、ロータリー・インターフェースの回転によりピッチを認識することができます。入力された楽器信号により、ロータリー・インターフェースが弦の振動に併せて点滅し、光学干渉により、ストロボ効果をつくり出します。弦の周波数がロータリー・インターフェースの回転速度と一致すると、回転は静止し、ピッチを示すインジケーターがはっきりと表示され、チューニングが完了となります。

電池交換について

Tru-Strobe Pedal Tunerは9V電池で駆動します。バッテリーボックスは、フットスイッチ部を片手で押し下げ、バッテリーボックス・ロックスクリューを緩めます。バッテリーボックス内のバッテリースナップに新しい9V電池を取り付け、バッテリーボックスに収納します。電池の取付けが完了したら再びバッテリードアを閉め、ロックスクリューでしっかりと固定します。電池が切れたら再び同じ作業にて電池交換を行います。インジケーターに“B”の表記が点滅すればチューナーのバッテリー交換は完了です。またACアダプターで電源供給を行う場合は別売りの CustomTry/AD9V (9V/200mA 極性: センターマイナス) をご利用ください。

チューナーのセットアップ

Tru-Strobe Pedal Tuner はインプットジャックと二つのアウトプットジャック (Out と Bypass) を装備しています。楽器のアウトプットジャックからチューナーのインプットジャックへ接続し、OUT ジャックからアンプへと接続します。この接続方法では楽器から出力された信号はチューニングモード時にはミュートされます。これにより、アンプから音を出すことなくチューニングを行う事が可能です。チューニング時に音を出したい場合には Bypass アウトからアンプへ接続してください。この接続方法では楽器からの出力信号はチューニング時も演奏時にもアンプへと送られます。Bypass アウトは同様にチューニング回路から完全に独立した状態となります。これにより演奏時にはチューナー回路を通さないトゥルーバイパスとなり、入力信号に対し音質劣化を防ぎます。

また電池の寿命を長持ちさせるため、使用しないときはジャックからプラグを外すようにしてください。

ディスプレイ

バックライト・ディスプレイはチューニングモードに入ると自動的に点灯します。これにより暗い場所でも簡単にチューニングを行う事が出来ます。また本機はバックライトを無効にする機能が搭載されており、屋外などの直射日光での使用に適しています (また同時にバッテリーの節約にもなります)。バックライトを無効にするには、チューニングモード時に▲(up) と▼(down) を同時に押ししてください。またバックライト機能を再度有効にするには、同様の手順を繰り返せばバックライトは再び有効となります。

使い方

Tru-Strobe Pedal Tuner はプラグがチューナーのインプットに接続されるとアクティブになります。(電池の寿命を長持ちさせるため、使用しないときはジャックからプラグを外すようにしてください。)

ペダルを踏み込み、バックライトが点灯するとチューニングモードに入ります。(※注意: バックライトは 30 秒間信号検出がないと、バッテリー寿命保護のため、自動的に消灯します)。

チューニングモード時に弦を弾くとチューナーが反応し、センターのディスプレイにピッチが表示されます。センターのロータリー・インターフェースが時計回り、ないし反時計回りに回り始めます。ロータリー・インターフェースが時計回りに回る場合はピッチが高すぎであることを示しています。逆にロータリー・インターフェースが反時計回りに回る場合はピッチが低すぎことを示しています。インターフェースの回転スピードは、基準音と離れば離れるほど速くなっていきます。インターフェースの回転がぴったりとまった状態がチューニングがしている状態となりますので、インターフェースを確認しながら、回転が止まるようにチューニングを行います。

また本機はクロマチックチューナーとなっているので、チューニングを行う弦ごとに設定を変更する必要はありません。チューニングを行う弦を弾き、ディスプレイ上の表記が希望の音程となるよう、チューニングを行ってください。

※注意: ロータリー・インターフェースは通常のチューナーとは多少異なるため、慣れるまでに少し時間がかかるかもしれません。従来のチューナーよりもはるかに精度の高い、より細かなチューニングを行うため、インターフェースの反応は従来のチューナーとは反応が多少異なるためです。

しかしながら慣れてしまえば、この驚くべき精度の高いチューナーの、完璧なまでにジャストチューンされた楽器の驚異的なサウンドに驚くことでしょう。

Buzz Feiten Tuning System®モード



Buzz Feiten Tuning System® は、ギターやベース等の Fret 付弦楽器に対して、その指板全域にわたってチューニングが合うように設定を行うシステムです。この特許取得済みのシステムは、指板上のあらゆるポジションまたはコードシェイプに対し、その全てのチューニングがぴったりと合うようにナットやブリッジをセットアップするものです。Buzz Feiten Tuning System® は製造段階からそのシステムが組み込まれます。また Buzz Feiten Tuning System® は認定の工房にて既存のギターを BFTS にセットアップすることも可能です。このシステムにより、アマチュアからプロミュージシャンまで、あらゆる演奏環境において常にジャストチューンされた演奏を行う事が可能となっています。詳細に関しては www.buzzfeiten.com にてご確認ください。

Tru-Strobe Pedal Tuner の電源が入った状態から MODE ボタンを一度押すと、インターフェースディスプレイに“B”と表示され、Buzz Feiten エディットモードに入ります。お手持ちの楽器が Buzz Feiten Tuning System® 対応の楽器であれば、このモードを使用してください。▲(up) または▼(down) を押すと、Buzz Feiten チューニングモードが①Bypass (--)→②Electric(EL)→③Jazz(JA) ※3 弦がフウンド弦のギターはこのモードとなります→④Bass(BA)→⑤Acoustic(AC)の順に切り替わります。セッティングの異なるそれぞれの楽器のチューニングを正確に行うために、お手持ちの楽器にあったチューニングモードを選択してください。ディスプレイが 1 つおきに点灯し Buzz Feiten チューニングモードとなります。Buzz Feiten チューニングには以下の 2 つのモードがあります。2 つのモードの切り替えは▲(up) または▼(down) ボタンで行います。

- OP…解放弦でチューニングを行います
- IN…12 フレット上の実音でチューニングを行います (ハーモニクスではありません)
- ・BFTS 対応のギターのチューニングをより正確に行うダブルチェックシステムです。
- ・最初に OP モードにて解放弦のチューニングを行います。OP のチューニングが完了したら、モードを IN に変更し、12 フレット上での実音で再度同じ弦のチューニングを行います。
- ・チューニング時は弦を強く弾きすぎないようにご注意ください。
- ・チューニングを行う際はピックを使用してください。フィンガーピッキングでチューニングを行うとクリアーなレスポンスが得られない場合があります。
- ・ストロボディスプレイは正しい音程で静止します。
- ・チューニングはピッキング後、ピッチが安定してから行ってください。

- ・BFTS モード時に正確にチューニングを行う場合は、必ず解放弦のチューニングから行って下さい。また入力されたピッチが、ディスプレイ上に表記された音程から大きくかけ離れてしまった場合、ディスプレイ上のピッチが表示されなくなります。ピッチが表示されなくなった場合は、ストロボディスプレイが反応するまで音程を上げないし下げるようにしてください。

以上の工程を 1 ~ 6 弦全て行い、チューニングが完了となります。

オクターブピッチの調整

OP モードで音程があっているにも関わらず、IN モードにおいてストロボディスプレイが回転してしまう場合はオクターブピッチがずれているのでサドルの調整が必要となります。ストロボディスプレイが左に回ってしまう場合は、サドルをネック方向へ動かし、ストロボが静止するように微調整を行ってください。逆にストロボディスプレイが右に回ってしまう場合は、サドルをボディエンド側へと動かし、ストロボが静止するように調整を行ってください。サドルの調整を行った場合、弦のテンションが変わるため、実音での音程もずれてしまいますので、再度 OP モードでのチューニングを行うようにして下さい。

オクターブピッチの調整が正しく行われなかった場合は、以下の要因が考えられます。

- ・電池残量の不足
- ・プラグ、ジャック、シールドの接触不良
- ・OP モードになっていない
- ・ピックを使ってチューニングを行っていない
- ・弦を強く弾きすぎ、または強く押さえすぎている

ダウンチューニングモード

Tru-Strobe Pedal Tuner の電源が入った状態で MODE ボタンを 2 回押すと、インターフェースディスプレイに“D”と表示され、ダウンチューニングモードに入ります。このモードでは通常のレギュラーチューニングから最大 3 音下げまで 6 段階のダウンチューニングを行う事が出来ます。このモードを選択した場合、ディスプレイ上に表記されているピッチに対し、実際にはダウンしたピッチでのチューニングを行う事が出来ます。例えば 1 音下げでチューニングを行いたい場合、このモードで“2”を選択します。続いて 6 弦のチューニングを行う場合、ディスプレイ上には本来の 6 弦の音である“E”が表示されますが、実際には 1 音ダウンの“D”でチューニングされます。同様にして全ての弦が実際の表示よりも 1 音下でチューニングを行う事が出来ます。

Tru-Strobe Pedal Tuner ー各部の名称と働き

このモードでの6段階のダウンチューニングは以下の通りとなっています。

- ・ 0: スタンダードチューニング
- ・ -1: 半音下げチューニング
- ・ -2: 1音下げチューニング
- ・ -3: 1音半下げチューニング
- ・ -4: 2音下げチューニング
- ・ -5: 2音半下げチューニング
- ・ -6: 3音下げチューニング

キャリブレーションモード

Tru-Strobe Pedal Tuner の電源が入った状態で MODE ボタンを 3 回押すと、インターフェースディスプレイに “C” と表示され、ダキャリブレーションモードに入ります。このモードでは Tru-Strobe Pedal Tuner の基準音を設定することができます。

基準音は A=400kHz から 499kHz まで、1 セント単位で行う事が出来ます。数値の切替は▲(up) または▼(down) ボタンで行い、基準音が確定したらもう一度 MODE ボタンを押し、通常のチューニングモードに戻ります。またこの MODE 選択時に約 10 秒間、何も押さなかった場合は自動的にチューニングモードに戻ります。基準音は一般的に 440kHz を選択している場合が多いので、特に指定の無い場合はこの値にしておくことをお勧めします。

チューニングのヒント

Tru-Strobe Pedal Tuner は非常に好感度かつ正確なストロボチューナーとなっています。正しく信号を入力することで、より正確なチューニングを行う事が出来ます。チューニングを行うためには以下の点に注意しながら、より快適で正確なチューニングを行ってください。

- ・ チューニングを行う際、弦を弾く時は強すぎたり弱すぎたりしないよう、適度な強さで行ってください。また弦を引いた直後は音程が安定せずシャープしてしまう場合が多いので、弦を弾き、音が安定してからチューニングを行うようにしてください。また弦を強く弾きすぎたりすると、正しい音が検出されない場合があります。
- ・ 楽器のトーンの部を絞ると、倍音が抑えられ、より正確なピッチチューニングを行う事が出来ます。
- ・ ギターのボリュームが小さすぎると正確なチューニングを行えない場合があります。ギター本体側のボリュームを上げてチューニングを行うようにしてください。
- ・ チューニングを行っている間、ディスプレイをし確認し、ストロボの回転が徐々にゆっくりとなり、回転が止まるまでチューニングを行ってください。ストロボの回転は一旦止まっても、楽器の倍音成分等により、細かく動く場合がありますので、ストロボが完全に停止するまで、きっちりとチューニングを行うようにしてください。

Tru-Strobe Pedal Tuner で次世代のチューニングをお楽しみください。

Strobe-Display

ストロボ・ディスプレイ…
ストロボにて楽器のチューニングを行います
ストロボが左回りの時は音程が低すぎ、
逆に右に回るときは音程が高すぎである
ことを示します。チューニングが合うとスト
ロボは停止します

9V Output

9V DC 出力…
別売の DC ケーブル等を使用
して外部の 9V 駆動エフェ
クター等へ電源供給します
※ AC アダプター使用時
※ 極性：センターマイナス

Drop-Tune-Mode

ドロップチューン…
ドロップチューン・モード選
択時にドロップの度合いを
表示します

Muted Output

ミュート出力…
インプットから入力された
楽器の信号を、チューン
グ時にミュートします

Bypass Out

バイパス出力…
インプットから入力された
楽器の信号を、チューン
グ時もアンプへ出力し
ます

On/Off Switch

オン / オフ切替スイッチ…
チューナーのオン / オフ
を切替えます

Battery Door Screw

バッテリードア開閉ネジ…
電池の交換を行う際は
このネジを外してバッテ
リーボックスに格納
された電池を交換し
ます

9V DC Input

9V DC インプット…
専用の AC アダプター (9V/200mA、
極性：センターマイナス) で本機に電
源供給を行います

Buzz-Feiten Tuning System® Mode

バズフェイトン・チューニング・モード…
バズフェイトン・チューニングモード選
択時、ここに “BFT” と表示されます

Mode/Pitch-Display

モード / ピッチディスプレイ…
現在のモード、またはチューニング時
の音程を表示します

Input

インプット…
チューニングを行う楽器
からの出力をこちら
へ入力します

Calibration Mode

キャリブレーション…
基準音を A=400Hz ~ A=499Hz
の間に設定します

Up▲/Down▼ Key

アップ / ダウン・キー…
パラメーターの数値の変
更を行うボタンです

MODE Key

モード・キー…
モードの切替を行うボ
タンです
ボタンを押すたびに BFT→Down Tune
→Calibrate→Normal の順に切替わ
ります

